

# 茅ヶ崎市立汐見台小学校 いじめ防止基本方針



令和3年4月1日  
(令和7年11月1日改定)



## 1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

いじめは、どの児童、どの学校でも起こり得るものです。私たちは、人間として絶対に許されない人権侵害行為であるという認識を持ち、いじめを生まない、いじめを許さない学校の風土をつくることに努めます。また、全ての児童が、互いを認め合いながら学び、安心できる学校づくりを行うとともに、保護者、地域の方々、その他の関係者との連携を図りながら、多くの目で子ども達を見守ることができるように、学校を中心としたコミュニティづくりに努めます。

### (1) 法律上のいじめの定義

「いじめ」とは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」（いじめ防止対策推進法第2条1項）

- ・ 法律上のいじめにあたるかは、対象児童の受け止め、認識によって決まります。表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童の立場に立って行います。教職員は、対象児童の表情や様子から法律上のいじめ被害の疑いを持った場合には、丁寧に対象児童の気持ちを確認したうえで、法律上のいじめかの判断をします。
- ・ 「法律上のいじめではない」と判断するのに迷いや不安がある場合は、丁寧に対象児童の気持ちを確認したうえで、法律上のいじめかの判断をします。
- ・ いじめは学校内だけでなく、校外活動で起こることもあり、学校だけでの対応には限界があります。

### (2) 法律上のいじめ対応における基本姿勢

- ・ 「法律上のいじめ」には、日常的に起こり得る軽微な児童同士のトラブル等も含まれます。したがって、本校のどの児童も「法律上のいじめ」の被害者にも加害者にもなり得るものととらえ、「いじめ0」ではなく「法律上のいじめ見逃し0」の意識で日々見守ります。
- ・ いじめが心身に及ぼす影響やいじめの問題に関する児童の理解を深め、すべての児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者、地域、関係機関との連携を図りながら、学校全体でいじめの未然防止と早期発見・対応に取り組みます。
- ・ いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、解決を図るとともに再発防止に努めます。

## 2 いじめの防止等に関する内容

### (1) いじめの未然防止のための取り組み

- ・ すべての教育活動を通じて、道徳心や規範意識を養い「命を尊ぶ心」や「他者を思いやる心」を育みます。
- ・ 児童の自主的、主体的な活動を推進することを通して、誰もが活躍でき認められる機会を多くつくり、自己有用感や自己肯定感を持たせ、大切にされていることが意識できるよう努めます。



- ・学習について困り感がある児童に寄り添いながら、どの児童にとってもわかりやすい授業づくりを進めます。少人数指導や個別指導、ふれあい補助員の活用等を行いながら、児童の達成感を養います。
- ・児童の発達段階に応じた道德教育、異学年交流等を通して、多様性の理解を深めるとともに児童同士誰もが好ましい人間関係を築けるように、コミュニケーション能力の素地を養うことに努めます。
- ・「いじめは絶対してはならない」という雰囲気为学校全体につくるよう努めます。また、いじめの傍観者とならず、いち早く教職員へ報告し、いじめを止めることの重要性を理解させるように努めます。
- ・児童に寄り添った教育相談ができるように、児童との信頼関係の構築に努めます。

## **(2) いじめの早期発見のための取り組み**

- ・児童の小さな変化も見逃さず見守っていくために、校務の効率化をはかり、児童と関わる時間を多くするように努めます。
- ・教職員は、日頃から児童の表情や態度の変化を見逃さず、気づいた情報を確実に共有するなど、その時々には適切な対応が取れるように、児童支援会議を行います。
- ・いじめを早期に発見するため、在籍する児童に対し、次の調査や面談を実施します。
  - ① 児童対象アンケート調査（年2回：7月、12月）
  - ② 臨時のアンケート調査（随時）
  - ③ 保護者との個人面談（年1回）
  - ④ 教育相談（12月および必要に応じて随時）
- ・児童及び保護者がいじめに係る相談ができるように、次のとおり、相談体制の充実を図ります。
  - ① スクールカウンセラーの活用
  - ② こころの教育相談員・ふれあい補助員の活用
  - ③ 特別支援教育相談員の活用
  - ④ 相談ボックスの設置（ぽかぽかルーム）

## **(3) いじめに対する迅速な対応と再発防止の取り組み**

- ・「いじめは決して許されない」という共通認識に立ち、全教職員がいじめの態様や特質、いじめを把握した時の対応等について、校内研修や職員会議、児童支援会議等を通して共通理解を図り組織的に対応します。
- ・教職員は、個人で情報を抱え込むことがないように、組織的にきめ細かく対応します。
- ・教職員がいじめを見た、またはその疑いがある行為を見た場合は、すぐにその行為をやめさせ、該当児童に事実関係の確認を行います。その後、「いじめ対応委員会」に報告し、対応に不備がないか確認を受けるとともに、引継ぎをします。
- ・いじめに係る相談を受けた場合は、「いじめ対応委員会」に報告・共有し、チームで対応にあたります。特に暴力を伴ういじめについては、迅速に対応をします。
- ・いじめが解消されるまで、また被害にあっていないか、意識的な見守りやいじめを受けた児童への定期的な声掛けを継続的に行います。
- ・安心・安全な学校生活を送ることができるよう、いじめを受けた児童の支援と、いじめを行った児童への指導とその保護者への助言を継続的に行います。



- ・いじめを行った児童に対しては、いじめは決して許されない行為であり、相手の心身に深く傷つける行為であることを指導します。また、その児童や保護者へは、健全な学校生活を営ませるための助言を継続的に行います。
- ・はやしたてたり、同調したりしている児童に対しては、それらの行為がいじめであることを理解させるよう指導します。
- ・いじめを見ていた児童にも自分の問題として捉えさせ、いじめを止めたり誰かに知らせたりできる勇気を持つよう指導します。
- ・いじめがきっかけで児童が登校できない場合、保護者と連携を図りながら、一定の期間、安心して学習できる部屋を確保したり、支援計画を立てたりするとともに、特別支援教育相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係諸機関と連携を取り、心のケアに努めます。
- ・犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、市教育委員会、警察等と連携して対処します。
- ・いじめが解消している状態であっても、いじめを受けた児童及びいじめを行った児童の状況を日常的にきめ細かく観察し、再発防止に努めます。

#### **(4) インターネット上のいじめへの対応**

- ・情報社会の一員としての自覚を持ち、適切に行動する態度を身につけることができるように、また、インターネットを通じて行われるいじめを防止するため、児童に情報モラル教育を行います。

#### **(5) 家庭との連携**

- ・「命を尊ぶ心」や「他者への思いやり」の気持ちを育むために、家庭との連携を図ります。
- ・いじめの事案が発生した時には、いじめられた児童といじめを行った児童の双方の保護者を支援し、両方の家庭と連携を図り解決に努めます。
- ・インターネット上のトラブルの多くは、学校外での生活中に起きるものであり、SNSの使い方などについては、家庭での教育によるところが大きいことについて、理解と協力を呼びかけます。
- ・いじめを行った児童に対しては、毅然とした姿勢で指導するとともに、家庭と連携しながら当該児童が抱える悩みや葛藤などの背景を把握して、適切な助言や支援をしていきます。

#### **(6) 地域との連携**

- ・校外でもいじめが起こることを踏まえ、体験活動や行事等を通して地域の人々や保護者とふれあう機会を通して見守る人の輪を広げていきます。また、学校説明会や懇談会の機会にパンフレット等の配布を通して、いじめの未然防止や対応について働きかけていきます。
- ・地域で活動されている指導者や民生児童委員、地域住民の方々と情報交換を行い連携していきます。
- ・PTAや地域の関係団体と連携して、地域全体で児童を見守り、健全な成長を促すことに協力していきます。

#### **(7) 関係諸機関との連携**

- ・いじめを行った児童やいじめを受けた児童の立ち直りを支援していくため、医療や福祉の



専門機関や地域の青少年育成団体等の協力を求めています。

- ・教育相談にあたっては、心の教育相談員やスクールカウンセラーだけでなく、医療機関等の専門機関や市青少年相談室等の連携も図っていきます。また、相談窓口等の詳細については児童や保護者に周知していきます。
- ・必要な教育的指導が十分な効果を上げることが困難な場合は、児童相談所や医療機関などの関係機関と連携を取っていきます。特に犯罪につながる場合は、市教育委員会と相談しながら警察と連携し対処していきます。日頃より関係諸機関（子ども家庭センター、児童相談所）の担当者と、情報交換の機会を持ち、顔がわかる関係づくりをめざします。

### 3 組織としての対応

#### (1) 「グループ会議」

「共感・支援グループ」が中心となって、次の取り組みをします。

- ・いじめ防止等の基本方針の見直し・年間計画の作成・取り組みの実行・検証・修正
- ・いじめの認知や対応等に関する教職員研修等の実施 等

#### (2) 「いじめ対応委員会」

個別の事案が発生した場合、委員会を開催し次の対応をします。

- ・いじめの判断と情報収集
- ・いじめ事案への対応検討・決定・指導
- ・いじめ事案の記録・報告 等

〈構成員〉

学級担任及び該当学年職員

※事案に応じて、管理職の判断で児童指導担当、教育相談コーディネーター、養護教諭等を拡充します。

### 4 重大事態への対応

いじめにより、児童の生命・心身または財産に重大な被害が生じた疑いがある場合や、いじめによって相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合は、迅速に、茅ヶ崎市教育委員会を通じて市長に報告し、教育委員会の指示を仰ぎます。市教育委員会の判断で、調査を学校自ら実施する場合は、「重大事態対応委員会」を発足します。

#### ※重大事態の判断

- ・自殺を企図した場合
- ・身体に重大な傷害を負った場合
- ・金品等に重大な被害が生じた場合
- ・精神性の疾患を発症した場合
- ・年間30日を目安とし、欠席を余儀なくされている疑いがある場合 等

#### (1) 重大事態対応委員会の構成

当事者の意向や、事案の性質等を踏まえ、校長が構成員を任命する。また、学校外の専門家等も加えられないか、茅ヶ崎市教育委員会と調整を図る。

#### (2) 組織の役割

- ・発生した重大事態のいじめ事案に関する調査



- ・調査結果を、市教育委員会通じて市長へ報告
- ・調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた児童やその保護者に対して、適時・適切な方法での提供・説明

## 5 その他

いじめを隠蔽せず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、適正に自校の取組みを評価します。